

目次

[今週号は 2022 年 1 月 14 日時点の情報を基に作成しています]

投資コラム	： 最近の経済指標	1
日本株銘柄情報	： バルニバービ(3418)	2
日本株銘柄情報	： VALUENEX(4422)	3

最近の経済指標

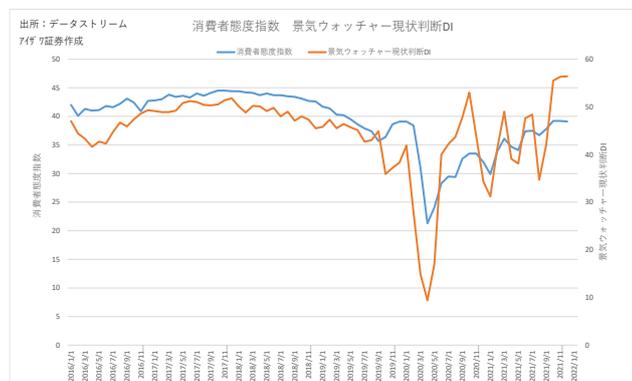
笹木 義次

日本経済は、物価上昇が継続する中で、景況感の改善が一服となっています。物価では、2021 年 12 月の企業物価指数が 108.7 と前年同月比で 8.5% の上昇となりました。高水準の前年同月比となっています。

一方景況感では、家計の景況感を表している消費者態度指数が、2021 年 12 月は 39.1 と前月差で 0.1 ポイント低下しました。経済全般の景況感を表している景気ウォッチャー調査の現状判断 DI は 56.4 となり前月差で 0.1 ポイントの上昇に留まりました。景況感は基調としては改善していますが、改善度合いは鈍化している事がわかります。

企業物価指数の上昇に見られるように、たしかに物価が上昇しています。ただし、変化率を見ると鈍化の兆しが出ています。企業物価指数の 2021 年 12 月の前年同月比は 8.5% ですが、2021 年 11 月の前年同月比 9.2%からは低下しています。また、2021 年 12 月の前月比は 0.2%の低下となっています。

企業物価指数の変化率は、景気循環の動向を反映しています。企業物価指数の変化率が鈍化している事は、景気循環が調整局面に入る事を示唆していると見ています。



バルニバービ (3418)

笹木 義次

株価指標

株価 (2022/1/14)	1,065.0 円
売買単位	100株
市場	マザーズ
時価総額	93 億円

事業内容

バルニバービは、食をベースとする不動産事業を本格化しています。そのため 2022 年 7 月期よりレストラン事業に加えてエステートビルドアップ事業の 2 つの事業セグメントへ変更しています。エステートビルドアップ事業には、不動産開発事業や地方創再生プロジェクトが含まれています。

事業モデル

バルニバービは、食をベースに不動産の価値向上を取り込むという差別化された事業モデルを構築しています。

バッドロケーション出店戦略では、一般的には飲食業に適していない立地でも、周辺の景観に映える店舗デザインと立地条件に応じたきめ細かい店舗運営により、集客力のある魅力的な店づくりの実績を積み重ねてきました。波及効果として店舗周辺の不動産の価値向上につながりました。バルニバービでは、店舗の出店と不動産の保有を併せて行う事で、向上した不動産の価値を取り込む事を実現しています。また店舗等の施設建築では多様なファイナンススキームを活用しています。

エステートビルドアップ事業が寄与

バルニバービの 2022 年 7 月期第 1 四半期の業績は、売上高が 25 億 31 百万円と前年同期比で 0.0%と横ばいに、営業利益は 1 億 53 百万円の損失と前年同期に比べて、95 百万円赤

<業績の推移>

連結	決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
	2020/7	9,433	-893	-841	-920	-106.9	7.5
	2021/7	8,046	-1,212	-622	357	41.8	7.5
	2022/7計	10,000	0	500	300	35.0	7.5

単位: 百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

<投資指標>

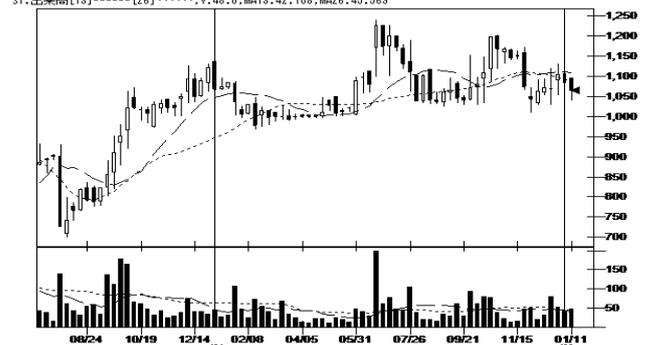
連結	指標	数値
	今期予想PER	30.4 倍
	PBR	4.03 倍
	予想配当利回り	0.70 %

字幅が拡大しました。経常利益は 3 億 5 百万円となり、営業外で助成金収入 4 億 66 百万円計上した事から前年同期比で 4.4 倍の増益となりました。レストラン事業はコロナ禍の影響でセグメント利益は損失となりました。エステートビルドアップ事業は不動産売却益を計上しました。ほぼ会社計画に沿ったものとなりました。

今期は改善見込み

バルニバービは 2022 年 7 月期の業績は、売上高が 100 億円と前年比で 24.3%の増収を、営業利益は 0 百万円を計画しています。当期純利益は 3 億円と前年比で 16.2%の減益の計画です。営業外で助成金収入を見込んでいますが、前期あった特別利益が今期は無くなるからです。レストラン事業はコロナ禍の影響を受けますが、エステートビルドアップ事業では、淡路島の「FrogsFARM」からの収益を見込んでいます。筆者はバルニバービの 2022 年 7 月期の業績は、売上高が 105 億円と前年比で 30.5%の増収を、営業利益は 1 億円と前年の 12 億 12 百万円の損失から収益化すると予測しています。

3418 銘柄名: バルニバービ 東証 選定 20/7/8~22/1/11
 日付: 22/01/14 時: 10:50 高: 1069.00 安: 1042.00 現値: 1065.00 出来高: 14.9
 直: 前日: 単経移動平均[13]-----[26]-----[26]-----MA13: 1108.31, MA26: 1090.23
 SI: 出来高[13]-----[26]-----V: 48.0, MA13: 42.108, MA26: 45.569



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いたします。

VALUENEX (4422)

笹木 義次

株価指標

株価 (2022/1/14)	714.0 円
売買単位	100株
市場	マザーズ
時価総額	21 億円

事業内容

VALUENEX は VALUENEX Radar という解析ツールを提供しています。これは大量のテキストデータを類似性に基づいて、1枚の俯瞰図として可視化するものです。テキストデータの全体像を把握する事が可能となります。知財管理、研究開発、マーケティングなどの分野で活用されています。

ASP 売上高とコンサルティング売上高という2つの形態でサービスを提供しています。ASP 売上高は解析ツールの利用ライセンスをクラウド経由で提供しています。ストック型の売上高となっています。コンサルティング売上高は、顧客企業の依頼で VALUENEX が解析を行うサービスです。

解析ツールの改善

これまで VALUENEX の解析ツールは主に自分自身で分析を行う知財部門を中心に使われています。経営企画関連部署など解析結果を重視する部門にとってはやや使いづらい点がありました。そこで、機能を絞り込むなどの改良を行っています。2021年4月から市場に投入していますが、評価されています。顧客企業の拡大に繋がる動きとして、注目しています。

また、VALUENEX ではネットワークの構築や認知度を高める活動も行っています。こうした活動は、将来の事業成長に繋がってくると思っています。

<業績の推移>

連結	決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
	2020/7	587	-94	-95	-90	-32.2	0.0
	2021/7	473	-181	-166	-175	-62.1	0.0
	2022/7計	NA	NA	NA	NA	NA	0.0

単位：百万円（1株利益、1株配当は円） 計画は会社計画によります。

<投資指標>

連結	指標	値
	今期予想PER	NA 倍
	PBR	3.04 倍
	予想配当利回り	0.00 %

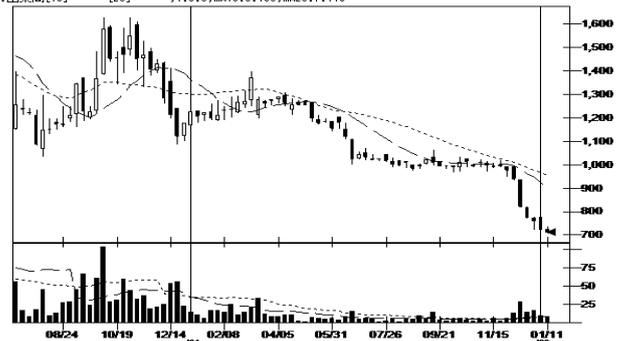
今第1四半期は改善

VALUENEX の 2022 年 7 月期第 1 四半期の業績は、売上高が 1 億 14 百万円と前年同期比で 21.3%の増収に、営業利益は 34 百万円の営業損失と前年同期差で赤字幅が 47 百万円縮小しました。売上高の増収効果と費用削減で営業損失幅が縮小しました。コンサルティング売上高の回復が全体の売上高の増収に寄与しました。顧客企業からの発注が回復したからです。ASP 売上高はほぼ前年同期並みとなりました。顧客企業のリピート需要に支えられています。

今期収益化を予測

筆者は、VALUENEX の 2022 年 7 月期の業績は、売上高が 6 億 35 百万円と前年比で 34.2%の増収を、営業利益は 30 百万円と収益化する事を予測しています。ASP 売上高とコンサルティング売上高が今期はともに回復すると見ているからです。費用の削減も進み、増収効果で利益が出易くなっています。今期業績の改善や解析ツールの機能改良による顧客企業の拡大が見込める事が、評価のポイントになっていると考えています。

4422 銘柄 VALUENEX 東証 1 部 20/7/8~22/1/11
 日高:22/01/14 高:719 安:710 現値:714.01 出来高:1.4
 日:20/7/8 高:587 安:580 MA13:801.46 MA26:953.04
 SI:出来高[18]-----[26]-----V:8.6 MA13:9.138 MA26:7.119



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所：AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa